

第2回 圏域地域医療構想策定委員会

圏域	丹波圏域
日時	平成27年10月20日(火) 14:00~15:35
場所	丹波市立柏原住民センター2階A会議室
司会	石井会長(丹波市医師会長)
出席者	欠席 中西委員 代理人が出席 片山委員、畑委員、村上委員 以外は本人出席
議事次第内容	1(議決) 必要病床数推計の選択について 2(課題抽出) 在宅医療への対応について 3(整理) 入院機能分化・連携について
結論	<ul style="list-style-type: none"> 必要病床数は推計①'、慢性期はパターンB+特例を選択。ただし、慢性期は①'から②の間となるよう県の調整を要望する。 圏域における2025年の在宅医療供給量を把握し、供給量の不足や夜間の対応について、市の協議会で検討する。 統合病院の医療機能を見据え、他の医療機関との機能分化や連携について意見交換を行うとともに、課題を整理した。
主な意見・質疑応答	<p>Q(委員)自病院の医療療養型病棟は常に満床に近く、待機者もいる。これは他圏域に急性期で入院した患者が丹波に帰ってきているためであり、減らさないでほしい。 A(県)県内他圏域との調整になるが、推計①'を基本とし、慢性期のみ①'から②の間と意見を集約してはどうか。</p> <p>○(委員)市内在住の医師が減り、今後、夜間無医村となる可能性がある。 また、今の診療報酬体系では在宅医療を積極的にしなくても収入を得ている。 ○(委員)管内診療所について、最近は内科が減り、眼科、耳鼻科、皮膚科が多くなってきており、在宅医療になじまない診療所が増えた。</p> <p>○(委員)採算性が悪くても圏域に必要な医療機能は公的病院が担うことが本筋。ただし、圏域は広大なことから、1次・2次救急に関しては他の医療機関もある程度対応するのが良い。</p> <p>Q(委員)統合病院が周産期母子センターの機能を有した場合、効率の面から入院は集約させ、外来は他の医療機関も利用できるのが良い。その際、分娩も外来も同じ医師となるよう、病院間を超えた雇用システムを検討していただきたい。 A(県)他部局の関係であり、検討課題としたい。</p>
次回までの課題	<ul style="list-style-type: none"> 本日の協議結果をベースに圏域版構想の素案作成に入る。